

沖縄戦被害者の救済状況について意見を交わした民間戦争被害者の差別なき国家補償を求める沖縄交流集会。11日、那覇市にて。



戦争被害者救済へ連携

全国から集い体験語る



戦争被害者を救済するための法律制定を求める「民間戦争被害者の差別なき国家補償を求める沖縄交流集会」が11日、那覇市内で開催された。東京や九州の空襲被害者ら約100人が参加し、戦争体験を語り合った。全国的な交流集会としては初めての開催。

全国空襲被害者連絡協議会と沖縄10・10大空襲・砲弾等被害者の会が主催した。

全国空襲被害者連絡協議会の中山武敏共同代表は「沖縄戦被害者の声を直接聞き、救済状況を知ることができた。補償のための法律制定を目指す機運が高まった」と語った。

沖縄10・10大空襲・砲弾等被害者の会の顧問を務める瑞慶山茂弁護士は「全国の空襲被害者にも、沖縄戦被害者の実態はなかなか伝えられていなかった。本人の生の声を通して、救済の必要性を感じてもらえたと思う」と話していた。